

のぐち歯科・口腔外科医院だより

2023年 新春号 Vol.17

舌がんについて

新年明けましておめでとうございます。本年もスタッフ一同、地域の歯科医療の為に努めて参ります、どうぞよろしくお願い致します。今回は、口腔がんのひとつである舌がんについて説明させていただきたいと思います。

1. 舌がんとは

舌がんは舌にできるがんで口腔がんが1つです。（口腔がんには舌、頬の粘膜、歯茎、上あごにできるものがある）

2. 症状

舌がんは舌の両サイドにできることが多く、なかなか治らない口内炎として自覚されたり、しこりとして自覚することもあります。がんというと痛いのではないかと思われる方も多いと思いますが、**初期のがんでは痛みがない**ことが多く、痛みや出血がある場合は、進行しているがんである可能性があります。



左側舌の縁にできた舌がん

3. 検査

検査については、まず舌がんは胃がんなどと違って直接診ることができるがんなので、しっかり病気の部分の診察あるいは経過観察（治るか？）が大切です。加えてあごの下や首のリンパ節が大きく腫れたり、硬いリンパ節がないかを直接触れて確認します。最近では、特殊な光を当てて病変部の性質を判断する**蛍光観察装置**といったものもあります。（当院では口腔がん検診で使用しています）

4. 組織検査

病変の一部を採取する**病理組織検査**があります。この検査は、肉眼で診る診察と違い、細胞レベルの検査になりますので、病変部ががんであるか否かの確定診断ができる検査です。

5. 画像検査

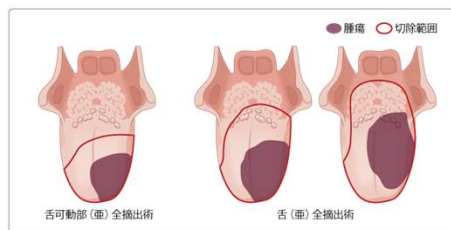
病変の進行度合いやリンパ節の転移あるいは、他臓器の転移の有無を精査する目的で、CT画像検査やMRI画像検査、PET画像検査があります。

6. 治療

舌がんの治療は**外科的に切除**するのが、一般的ですが、がんの進行度合いやリンパ節転移の有無によって治療法が異なります。上段の図のように腫瘍が小さい場合は、**部分切除**（赤ライン）で終わることができですが、下段の図のように腫瘍が大きい場合は、**舌（亜）全摘**（赤ライン）で舌を大きく切除する必要が出てきます。リンパ節の転移があれば、首のリンパ節を含めて切除する**頸部郭清**が必要になったり、舌の機能を回復するために**再建手術**が必要になります。腫瘍が大きかったり、リンパ節の転移がある場合には、放射線治療や抗がん剤による化学療法を併用することもあります。



舌部分切除：比較的小さい切除



舌（亜）全摘：広い範囲の切除

7. 最後に

なかなか治らない口内炎、できものなどを自覚する場合には、できるだけ早く**口腔外科を受診**されることをお勧めします。